

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600420		
法人名	医療法人社団 延山会		
事業所名	グループホーム CoCoすみかわ		
所在地	北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号		
自己評価作成日	平成22年11月26日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600420&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしくほのぼのと」をモットーに安心して穏やかな生活を送って頂く事ができるよう、入居者の状況の変化に合わせて試行錯誤しながらその時々にあった入居者を第一に考えた対応を心掛けている。
医師が施設長で看護師が常勤しており、併設病院との密な連携により、医療健康管理において安心感を持って頂けている。入居者の身体機能の維持等については併設病院の理学療法士の、食事の形態や栄養の問題は栄養士のアドバイスも受ける事が出来る。また、併設の老人保健施設のサークル活動や行事への参加も可能で、入居者の活動に選択の幅がある。
ホーム隣の杉の子保育園(職員用保育園)の子供達との交流も楽しみの一つである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム CoCoすみかわ」は、住宅街の一角にある法人の病院、老人保健施設に併設しており、同法人の支援体制のある中で少人数のグループホームとして開設から10年経過している。当初は手探りの対応も、徐々に利用者の営みに沿って自然体なケアが実践できている。介護度も重度化の傾向にはなっているが、理念を基に利用者の思いを引き出しながら細やかなサービスが提供されている。夜間の災害時にも法人の病院や施設の協力があるので、強力な支援は利用者の暮らしを守り、家族の安心感にもなっている。地域との協力関係も充実しており、災害時にも地域で何が出来るか、地域の安全面として捉え積極的な関心を寄せている。利用者は法人の老人保健施設の夏祭りやボランティアの催しに参加し、町内会のお祭りでは地域の友達とも交流している。また病院の院内保育園の園児との交流を楽しみにしている。法人の内部研修や事業所内の勉強会など研修の機会が多く、職員はそれらの学びをケアに活かしている。その人らしい過ごし方を常に話し合い、家庭的で明るい環境を提供しながら、穏やかに過ごせるように支えている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作っている。事務所に掲示する他、各スタッフが所持し意識して取り組むようにしている。	基本理念の中に、「地域との関わりを保ちながら家庭的で穏やかな安らぎのある暮らしを支える」という内容があり、職員会議で地域住民との交流を話し合っている。職員は理念を意識的に捉えて、対応への指針としている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも加入し、祭りの時には子供神輿がホームまで来てくれたり、入居者が出店に出かけ交流をしている。またボランティアの活用や火災時の協力体制等連携を図っている。	併設している法人の病院や老人保健施設を利用する環境の中で、当事業所も地域住民からの協力があり関係も良好である。法人の夏祭りに利用者も参加し多数の住民と交流している。毎月院内保育園の園児の訪問があり、利用者は楽しみにしている。ボランティア訪問による催しもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設に学生が実習や総合学習等で入る場合、グループホームを開放し学ぶ機会を提供している。また看護学校やヘルパーの実習生の受け入れを行っている。ホームの広報誌に認知症のワンポイントアドバイスを載せ、町内会に回覧している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においてホームの活動や利用者の状況・評価の結果等も報告し意見を頂いている。また家族会と合同で開催し行事へも参加していただく等入居者と交流の機会を設けている。	市の職員や協力医も運営推進会議のメンバーで、会議では専門的な情報を得る機会になっている。現況報告の他に火災訓練後の反省会を持ち、意見などを活かしている。家族会と合同開催時にはバーベキューを楽しみ、利用者との交流の機会としている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に随時連絡を取っている。全ホームが加入している苫小牧・白老のグループホーム連絡会においても、毎回の例会で市担当者からの指導や意見交換、交流の場が設けられている。運営推進会議には必ず出席して頂いている。	市で最初のグループホーム開設の経緯から、行政担当者とは緊密に連携している。市の担当者が運営推進会議のメンバーになっており、協力的な関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設事業所合同の抑制廃止委員会に入っており、委員会主催だけでなくホーム内でも学習会を行っている。出来るだけこまめに見守りを行うことで危険の回避に努めており身体拘束をしているケースはない。	法人や事業所内の勉強会で身体拘束を学び、抑制廃止マニュアルに沿って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉や行動の禁止についても確認しているが、利用者の行動を抑制しやすい言葉を取り上げ、さらに極めたいと検討している。日中は玄関に鍵をかけないで、取り付けた鈴の音で出入りを見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内やホーム内でも研修を行っている。また、実際の現場においても虐待に繋がりがかねない事項に関してはその都度指導している他、カンファレンスにおいても説明し、注意をうながしている。		

グループホーム CoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び成年後見制度についての研修会を行っている。制度利用の相談にも対応しているが利用に至った入居者はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するには重要事項説明書・契約書をわかりやすく説明し、ご理解したことを確認した後同意のサイン・押印をして頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等において意見・要望を伺い、日常のケアや運営に生かしている。	年に3回の家族会では、ケアへの対応などに家族視点の差異もあり、活発な意見交換から家族の意向を把握する機会になっている。家族の来訪時には意見を聞くように対応されているが、記録化の工夫が望まれる。	家族の些細な意見をも運営に反映させたいとの意向があるので、職員間の共有をさらに深めるような記録化と管理の工夫に期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月第2・第4木曜の夜に行っている。また代表者が参加する運営会議も月1回行われている。職員からの提案は多くない為意識して発言する機会を作っている。	必要な時には法人管理者との面談があり、年に1回はホーム長との個人面談がある。職員会議で業務の改善や介護計画への提案などを取り上げて解決に向けている。その場で解決が難しい案件は法人で検討してもらい、労務関係の相談もしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や勤務年数による昇給がある。勤務状況等で出された課題を検討し対応している。各スタッフの状況把握と向上心を持てるよう対応するため年1回個別面談している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては各段階に応じて研修を行っている。また、日々の業務を理解するまで勤務時に指導者をプラスする等行っている。また、外部・法人内・ホーム内研修等必要に応じ積極的参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会がネットワークとなっている。他事業所も集まる研修の機会を利用し勉強するとともに交流を図っている。有志のグループホームスタッフが集まって行う勉強会へ参加したり他事業所を見学する等取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた後にご本人の所を訪問したり、ホーム見学時によくお話を伺う等、機会を生かして対応している状況によっては入居前にご本人に何度かホームを訪ねてもらい、事前にスタッフとの関係作りをする事もある。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より意識して関係作りを行っている。入居後も慣れるまではスタッフの方から話す機会を作ったり、何かサインがあればすぐ対応できるよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は総合的に受け他機関と連携し必要な支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、可能な仕事は入居者本人と協働して行っている。可能な限り本人の意見を聴取しケアに生かしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等において御本人の状況変化を説明する事で、その日の状況を知っていただき、その上で会話や援助をしていただけるように働きかけている。スタッフも共にお茶を飲んだり会話に入ったりし関係を築くよう努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会もすすめているが、誰が来たのかわかる方は現在いらっしゃらない。また可能な方へは町内会で行われる行事へ参加をする等知人と出会う機会を持てるよう支援している。	家族の協力で月命日には自宅に戻ったり、また馴染みの美容室に出かけている人もいる。隣の協力病院に入院中の家族の見舞いに、毎日職員が同行し気兼ねのないように支援している。友人や知人の来訪時には温かいもてなしで楽しい交流が持てるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行はあるが入居者間で相手を気遣うなど自主的な関わりは以前よりも多く見られる。うまく関わりを持てるよう各個人と職員のコミュニケーションを大切にし、職員が利用者同士の関係を取り持てるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に立ち寄りいただけるよう声掛けを行うとともに話を伺ったりアドバイスを行う等している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴を知る事等で本人本位に援助するよう努めている。日常の生活場面においても意向の確認を出来る範囲で行っている。本人の意向確認の難しい方に関しては家族より話を伺い本人の思いを推測してケアに生かしている。	生活歴や趣味の情報をセンター方式で把握し、介護計画に意向を載せている。アセスメントは半年ごとに見直して新しい情報を蓄積している。発語の難しい利用者には声かけの中で表情から思いを汲み取り、職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご家族から聴取するのみではなく、在宅で利用中のサービス事業者や病院等からも情報を収集、把握している。また訪問も行い生活環境の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な働きかけをする事で持っている力の把握に努めるとともに、一人ひとりのその日の状況変化も把握し、申し送りやカンファレンス等にて情報の共有を図っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当医その他関係者とも連携を密に行うとともに、家族の希望を伺いながらケアプランを作成している。毎月のカンファレンスにおいても出た意見等プランに生かし見直しを行っている。	初回には事前の情報を基に暫定計画書を作成し、2週間から1ヶ月以内に見直し本プランとしている。2ヶ月ごとにケア内容を定期的に評価し、状態に変化がない場合は6ヶ月ごとに見直している。計画策定時に、利用者、家族の意向を入れて同意を得ている。計画作成者は職員の意見を聞いて評価表を作成し、カンファレンスで評価内容を確認している。	介護計画の見直しに、職員も利用者の状態変化を記録できるような方法で、カンファレンスに参加できる仕組み作りに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは基本的にプランに基づき行っているが、その中でも小さな事でも気づきがあった事は日誌に記入し申し送りをし、カンファレンス時に見直す等行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊に対する支援、家族等への寝具、食事の提供の他併設事業所の機能も活かした対応を行っている。また併設している老人保健施設の行事への参加や必要時ハビリスタッフの指導等も受ける事が出来る。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活や行事等においてボランティアの方の援助を頂いている。また、災害時や行方不明時等状況に応じて町内会や警察、SOSネットワークと連絡を取る体制となっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の外来受診の他定期的な訪問も受けており医師または看護師と相談したり、指示を仰ぐ等しながら健康管理を行っている他、希望時や必要に応じ他院を受診し専門医の指導を仰ぐ等行っている。	家族の同意を得て協力病院に受診しているが、協力医の訪問診療も月に1回はある。他科受診時も職員が同行し、協力医の「医療情報提供書」を主治医に渡し連携している。受診結果を家族に報告し「受診記録」で職員も内容を共有している。	

グループホーム CoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長は看護師である為、介護職員は日常のケアの中での変化や気づきをホーム長へ報告したり、ホーム長不在時は併設病院の看護師に相談し必要な対応を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会を行うとともに病棟看護師やソーシャルワーカーと病状等の情報交換を行い、退院時期を相談したり必要な準備を協働して行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を早期に確認し状況に応じて医師、家族、ソーシャルワーカーも入って方針を立てている。	重要事項説明書に重度化に伴う方針を載せ、看取りに関する指針の対応を文書で説明している。病状の変化時には関係者で方針を確認し、家族の希望に沿い、可能な限り対応している。吸引処置を継続する場合は入院方向になる。協力病院が隣接しているので、家族も入院治療を希望することが多い。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内勉強会や急変時の対応等について機会ある毎に説明を行っているが、看護師に頼っている傾向あり、全スタッフに実践力を身につけるような訓練は行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内スタッフのみで研修をしたり、併設事業所や町内会と合同での火災避難訓練を行う等しているが、地震や水害を想定した訓練は行っていない。	法人と合同で年2回の夜間を想定した訓練を実施し、訓練には町内会の防災部も参加している。病院職員の協力も得て火災避難訓練を実施しており、地震災害に備えてのシミュレーションも検討している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴や性格を把握したうえで、人格やプライバシーを傷つけないように注意しているが、排泄時に安全確認の為、ドアを開けている事があり、工夫を要する。	法人や事業所内でプライバシーに関する研修会を定期的に行っている。名前の呼び方は、名前に「さん」付けを基本としている。排泄に関する言葉は、職員同士で他の言葉に置き変えて表現することで利用者のプライバシーに配慮している。個人記録などは法人本部や事務所で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食事の味付け、好きなTV番組等希望を引き出したり、各個人が少しでも選択したり決定できるよう働きかけ、自分らしく生活できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行に伴い介助が増加し職員のペースで援助しがちな状況ではあるが、各個人のペースや思いに添った支援を心掛けている。本人が希望を表現できない方に対してはその人らしさを考え支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等において自分で選択できる方には好きな衣類を選んでいただいているが、できない方に対してもおしゃれを意識して支援している。		

グループホーム CoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じることができることを行って頂ける様働きかけている。内容に関しては少しでも喜んで頂けるようなメニュー作りや、あじつけ、盛り付けを行うよう努めている。食べたい物の希望があるときにはそれもメニューに取り入れている。	昼食の献立は、法人の管理栄養士が作成して病院から届けてもらっている。朝夕の献立は利用者の希望を取り入れながら職員が作成し、下ごしらえや調理を一緒に行い利用者と共に食事を楽しんでいる。おやつ作りを一緒に楽しむこともある。誕生日には本人の好物を献立に取り入れてお祝いしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作りでは栄養のバランスを考え作成している。水分・食事量は毎日チェックし少ない方等に対しては補食する等対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状況に応じてプランに入れる等支援する事で残存している歯が少しでも保持できるよう努力している。必要に応じ併設病院の歯科医の指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化によりトイレに行きたくも難しくなっているが出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。各個人の排泄パターンも把握し援助している。	生活(暮らし)アセスメントシートに記録して排泄間隔を把握し、日中はハビリを考慮してオムツの利用者も歩いてトイレに移動してもらい、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間も立位が可能な利用者には声かけにより、トイレでの排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により様々な症状を引き起こす事がある為、食事内容や朝にヨーグルトを飲んで頂く等工夫している。運動への働きかけは不足している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に対する希望がある時は意向に合わせて行っているが、殆どの方は希望がなく曜日を決めて入浴して頂いている。体調の変化には十分注意タイミングを合わせている。また入浴剤の使用等少しでも楽しんで頂ける様工夫している。	月火、木金の午後を入浴日として週2回以上入浴できるように支援しているが、他の曜日の入浴も可能になっている。週3回以上入浴する利用者もいる。利用者の体調などに応じて、清拭や足浴も随時行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状況や入眠状況を考慮した上で支援している。くつろげる場所がどこなのか個々のその時の状況によりソファ・ベッド等を考慮し午睡等して頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等についてはその都度説明している。また毎回服薬チェックも行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の好む事等を把握したうえで一緒にTVを観たり、歌ったり散歩したりする事で楽しみ時間を増やして頂く、また家事等得意とする事を行っていただいている。		

グループホーム CoCoすみかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>戸外に出掛ける希望に対しては、天気・気温等考慮している。散歩等以外本人からの希望はほとんどなく、職員がすすめて行事として出掛ける機会を設けているが日常的な支援としては不足している。</p>	<p>夏季の天気の良い日は、各利用者に合わせて近隣の庭を見ながら散歩したり、畑などに出かけている。車椅子利用者も、天気の良い日は受診後に散歩を行っている。また、ベランダでのお茶会などを行い、外気に触れる機会を多く取り入れたり、果物狩りやサンガーデン見学などの年間外出行事も多く取り入れている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を必要とする時はその都度家族に持参していただき、本人が使えるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話やコードレス電話を設けているが電話や手紙をやりとりできるレベルの方はほとんどいない。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベランダには大きな窓があり畑や庭に咲いた花を見ることが出来るようにしている。また季節に応じてお雛様・こいのぼり十五夜のお供えを飾る等している。また湿度にも注意し加湿器を使用したりしている。</p>	<p>居間の大きな窓やベランダからは、畑や保育所の子供達の遊ぶ姿を見ながら、季節を感じる事ができる環境になっている。室内は清掃が行き届いて清潔感があり、廊下や居間には家庭的なソファや飾り棚、昔懐かしいミシンなどを配置して、家庭的な生活感が感じられるように配慮されている。日めくりや季節に応じてクリスマスツリーなどを飾り、時の見当識にも配慮している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前や廊下奥にもソファを置いたり、1人掛けの椅子を置いたりしてくつろげるようにしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のベッド・たんす等家具に関しては出来るだけ本人が使用していたものを持ってきていただいている。殺風景な居室もある為さらに工夫が必要。</p>	<p>各居室には洗面台やナースコールが備え付けであり、タオルなどで湿度調節も行われている。利用開始時には、使い慣れた物や馴染みの物などを持ってきてもらうように話したり、家族の希望で、自宅を訪問して持ち込む物を一緒に選ぶこともある。室内には筆筒や椅子、鏡台などの馴染みの物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室入口に名前を付ける、トイレの表示、大きな時計、日めくりカレンダー等により分かりやすくしている。個人の力に合わせて自分の事が出来るよう支援している。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム CoCoすみかわ

作成日：平成 23 年 1 月 7 日

市町村届出日：平成 23 年 1 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	年に3回の家族会や面会時等を利用し、ご家族等の意向の把握に取り組んでいるが、ご家族の些細な意見をも職員間で共有し運営に活かしているとはいえない。	ご家族の些細な意見をも見逃す事なく把握し、個別の記録を行う事により、利用者個々の状況やご家族の意向の理解をより深め、それらを職員間で共有し運営に活かすことができる。	・職員全員がご家族や利用者の些細な意見等にも関心を寄せる様指導を行う。 ・利用者個別にご意見等を記載する書式を作成する。 ・職員会議や申し送り等で全スタッフが把握できるようにする。	H22年 12/22 職員会議 まで
2	26	計画作成担当者は、サービス計画を作成する時にスタッフを集めたカンファレンスにて意見の収集を行っているが、何の意見も持たずにただ会議に出席する事も出来る為、全スタッフが本来の意味で積極的に参加できているとは言えない。	全スタッフが利用者の状態変化をアセスメントし、カンファレンスに積極的に参加する事が出来る。	センター方式のアセスメント表D-1、D-2を会議前に各スタッフへ配布し、事前に記録をしてもらい、それを元にカンファレンスを行う。	H23年 1/27の カンファ レンスまで
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。